

ONE

OCEAN NETWORK EXPRESS

2020年度第2四半期決算説明資料

2020年10月30日

- ▣ 1. 2020年度第2四半期決算概要 - P.3
- ▣ 2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数 - P.4
- ▣ 3. 2020年度通期見通し - P.5
- ▣ 4. COVID-19影響と対応・2020年度取り組み - P.6
- ▣ 5. 参考資料（船隊構成、航路構成） - P.7

1. 2020年度第2四半期決算概要

□ 要点

需要の改善に伴う短期運賃市況の上昇により、前年同期比大幅に改善し2Qで515百万US\$の黒字を達成 (+394百万US\$)

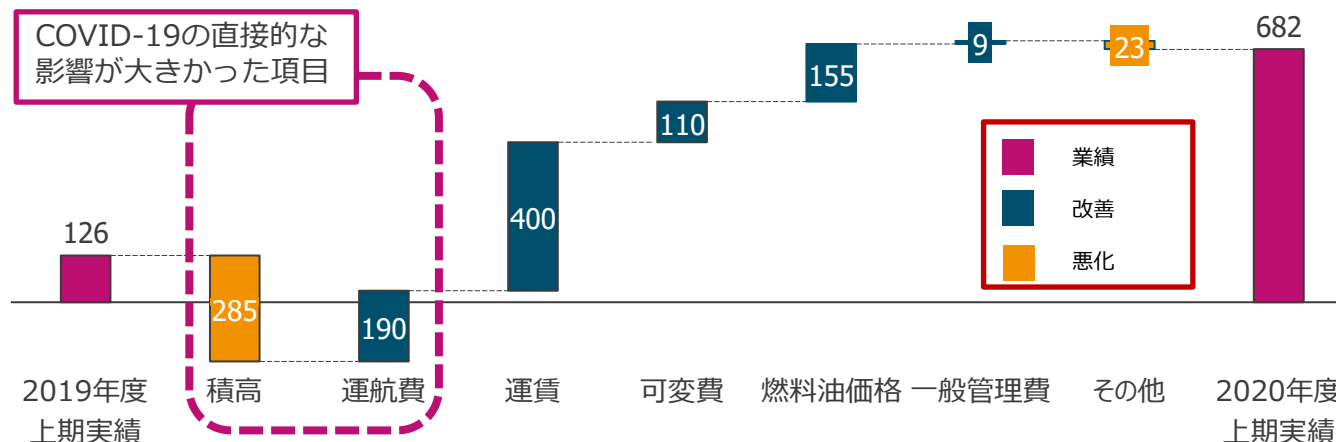
- ・ 1 Qから2 Qにかけて消費の回復により需給は急速に改善、特に北米航路は積高が前年の水準に回復。その他航路も堅調。
- ・ THE ALLIANCEの一層の競争力の強化や“Operation Excellency”(p.6参照) の取り組みが進展。

□ 2020年度上期実績

(単位：百万US\$)

	2019年度 実績			2020年度 実績			2Q 対前年同期比		上期 対前年同期比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	増減	増減 (%)	増減	増減 (%)
売上高	2,875	3,109	5,984	2,736	3,181	5,917	72	2%	-67	-1%
税引き後損益	5	121	126	167	515	682	394	326%	556	441%
燃料油価格 (US\$/MT)	\$432	\$419	\$427	\$348	\$309	\$328	-\$110	-26%	-\$99	-23%

□ 2020年度上期実績対前年度比較



2020年度2Q その他実績

- EBITDA : 854 百万US\$
- EBIT : 603 百万US\$
- 総燃料消費量 : 887 千 MT
- 総積高 : 3,061 千 TEU

- 積高：主に1QでCOVID-19により減少
- 運航費：プロダクト改善効果が現出。主に1Qに輸送需要減少に伴う減便実施
- 運賃：短期市況が堅調に推移
- 可変費：往復インバランス改善によるコンテナ回送費減、コスト削減進展等
- 燃料油価格：油価はさらに下落
- 一般管理費：代理店料が減少
- その他：金利低下による利息減等

2. 主要航路別積高・消席率・運賃指数

(単位：千TEU)

航路別積高・消席率		2019年度 実績							2020年度 実績		
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	上期 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績
北米往航	積高	669	773	665	585	1,442	1,250	2,692	610	765	1,375
	消席率	86%	94%	93%	92%	90%	93%	91%	96%	100%	98%
欧州往航	積高	460	488	440	443	947	882	1,830	347	419	766
	消席率	87%	95%	92%	100%	91%	96%	93%	96%	98%	97%
北米復航	積高	350	310	320	331	660	650	1,310	327	328	654
	消席率	47%	37%	42%	49%	42%	45%	44%	51%	43%	47%
欧州復航	積高	323	328	362	325	651	687	1,339	290	289	579
	消席率	64%	64%	72%	67%	64%	69%	67%	75%	70%	73%

(2018年度1Qの各航路総平均運賃を100とした指数)

航路別運賃指数		2019年度 実績							2020年度 実績		
		1Q 実績	2Q 実績	3Q 実績	4Q 実績	上期 実績	下期 実績	通期 実績	1Q 実績	2Q 実績	上期 実績
北米往航		103	105	104	110	104	107	105	110	119	115
欧州往航		100	101	98	111	100	105	102	106	103	104

- 積高・消席率：北米航路はCOVID-19の影響による落ち込みから前年の水準近くまで回復。欧州航路も回復基調にて推移、高消席率を維持。
- 運賃指数：北米航路は需給の回復に加え例年通りピークシーズンを迎え運賃指数は上昇。欧州航路は安定的に推移。

3. 2020年度通期見通し

□ 要点

上期は需要の改善を背景に税引き後利益682百万US\$を達成。下期は旧正月等の季節要因及びCOVID-19の感染再拡大による荷動き減退の懸念を考慮し、245百万US\$を見込む

- 下期について、現時点では引き続き需要は堅調に推移しているものの、一大消費地である欧米を含む世界的なCOVID-19の感染拡大は続いており、今後の需要や短期運賃市況に関して依然として不透明な状況が継続する。4Qは旧正月以降例年スラックシーズンとなる事も考慮し、損益は245百万US\$を見込む。
- ただし、足下までの堅調な需要と短期運賃市況が下支えとなり、前年度比では下期も267百万US\$の増益を見込む。

□ 2020年度通期見通し

(単位：百万US\$)

	2019年度 実績			2020年度			通期 対前年比	
	上期	下期	通期	上期 実績	下期 予想	通期 予想	増減	増減 (%)
売上高	5,984	5,881	11,865	5,917	5,994	11,911	46	0%
EBITDA	-	-	1,368	1,342	872	2,214	846	62%
EBIT	-	-	422	846	371	1,217	795	288%
税引き後損益	126	-22	105	682	245	928	823	884%
燃料油価格 (US\$/MT)	\$427	\$456	\$441	\$328	\$367	\$352	-\$89	-20%

4. COVID-19影響と対応・2020年度取り組み

COVID-19影響と対応

荷動きへの影響	全世界的な需要の減退により、1Qの荷動きは対前年比2割弱減少したが、前年度並の水準まで回復。ただし世界的な感染拡大と輸送需要の見通しは非常に不透明となっており、引き続き動向を注視。
危機管理対応	CEOをトップとする危機管理委員会を中心に、従業員や船員の安全を確保すると共に、重要な社会インフラである定期船サービスの安定継続に努める。各国感染状況や社会情勢に迅速に対応し、柔軟なBCPを継続中。

2020年度取り組み

競争力強化と差別化に向けた取り組み	Customer service oriented	Operation excellency	Quality of employee
	<ul style="list-style-type: none"> THE ALLIANCEに現代商船が加入し、一層競争力のある多彩なプロダクトを提供。主な改編内容は欧州航路(FE4)の23KTEU型への大型化、14KTEU型による欧州と北米西岸の振り子配船サービス(FP2)開始等。 顧客体験向上を目的とした顧客タッチポイントの改善。live chatサービスは中国、欧州、米国等に加えて、ベトナム、台湾、メキシコ等で新規運用開始。E-Bookingの割合は2018年度70%強→2020年度上期では90%前後まで増加。 オンラインイベントの出展やデジタルコンテンツの充実化等進展 	<ul style="list-style-type: none"> ターミナルとの協業による運航効率化への取り組み。中国、香港、オランダ、米国、インド等で実施中。 熊本エンジニアリングラボを中心とした積み付けを含む運航効率最適化を継続して推進。2万TEU型MOL Tributeにて19,458TEUの積み高新記録を達成する等、世界各地・各船型で成果。 AIを活用した最新需要予測モデルによる空コンテナ在庫調整および回送効率化を継続。世界650か所で実際に運用中。 	<ul style="list-style-type: none"> ONE Core Valueの浸透を通じ、会社の目指す姿に対する社員の理解を深化、モチベーションを維持・向上 デジタル化の加速に伴う社内教育の充実化 SNSを利用した情報発信の拡充による、社員の自社理解促進 世界各地での地域貢献への取り組み (COVID-19関連：The Missions of Seafarersへの寄付、イタリア赤十字へのコンテナの寄付、フランスでの医療従事者への支援、ポーランド・ブラジル・ウルグアイ等で社会的弱者への支援等)
<ul style="list-style-type: none"> “To be sustainable and resilient, and a trusted partner for our customers in delivering global shipping solution” を目標に据え、環境 (E)、社会 (S)、ガバナンス (G) とOperation Excellenceを四つの柱とする戦略を策定。 サステナビリティレポート2020を発行。 			

5. 参考資料

□ 船隊構成

Size			1)2020年6月末	2)2020年9月末	2)-1)
	>= 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	120,600	120,600	0
	隻数	6	6	0	
10,500 - 20,000 TEU	キャパシティ(TEU)	396,600	411,600	15,000	
	隻数	29	30	1	
9,800 - 10,500 TEU	キャパシティ(TEU)	100,100	100,100	0	
	隻数	10	10	0	
7,800 - 9,800 TEU	キャパシティ(TEU)	374,326	383,326	9,000	
	隻数	42	43	1	
6,000 - 7,800 TEU	キャパシティ(TEU)	202,080	197,287	▲ 4,793	
	隻数	31	30	▲ 1	
5,200 - 6,000 TEU	キャパシティ(TEU)	83,992	83,992	0	
	隻数	15	15	0	
4,600 - 5,200 TEU	キャパシティ(TEU)	113,580	103,731	▲ 9,849	
	隻数	23	21	▲ 2	
4,300 - 4,600 TEU	キャパシティ(TEU)	62,952	62,952	0	
	隻数	14	14	0	
3,500 - 4,300 TEU	キャパシティ(TEU)	25,408	21,162	▲ 4,246	
	隻数	6	5	▲ 1	
2,400 - 3,500 TEU	キャパシティ(TEU)	60,704	63,151	2,447	
	隻数	23	24	1	
1,300 - 2,400 TEU	キャパシティ(TEU)	10,296	12,009	1,713	
	隻数	6	7	1	
1,000 - 1,300 TEU	キャパシティ(TEU)	7,452	10,626	3,174	
	隻数	7	10	3	
< 1,000 TEU	キャパシティ(TEU)	0	0	0	
	隻数	0	0	0	
合計	キャパシティ(TEU)	1,558,090	1,570,536	12,446	
	隻数	212	215	3	

第2四半期末

□ 航路構成

(2020年2Q 往復スペースの構成)

